

●…… 講演会・講習会・学術研究集会等 ……●

——東海支部——

●平成 25 年度第 4 回学生会講演会

日時 平成 25 年 11 月 6 日 (水) 13:00~15:00
会場 静岡大学浜松キャンパス 総合棟 21 教室 (浜松市中区城北 3-5-1)
演題 半導体レーザにおけるカオスと応用
講師 大坪順次 (静岡大)
参加費 無料
参加資格 会員以外の方でも入場できます。
その他 詳しくは東海支部 HP: <http://www.ieice.org/tokai/> を御覧下さい。
主催 電子情報通信学会東海支部

●平成 25 年度第 3 回一般講演会

日時 平成 25 年 11 月 18 日 (月) 15:00~16:30
会場 ウィンクあいち 1208 会議室 (名古屋市中村区名駅 4-4-38)
演題 災害の被害を小さくするために一最新のレーダ技術
講師 浦塚清峰 (NICT)
参加費 無料
参加資格 会員以外の方でも入場できます。
その他 詳しくは東海支部 HP: <http://www.ieice.org/tokai/> を御覧下さい。
主催 電子情報通信学会東海支部

——北陸支部——

●平成 25 年度第 2 回学生講演会

日時 平成 25 年 11 月 6 日 (水) 15:10~16:40
会場 福井工業高等専門学校一般教育棟 3 階合併教室 (鯖江市下司町)
演題 ワイヤレス電力伝送技術の基本と実用化に向けた課題
講師 庄木裕樹 (東芝)
参加費 無料
参加資格 会員以外の方も入場できますが、事前の参加申込みが必要です。詳しくは北陸支部 HP: <http://www.ieice.org/hokuriku/> を御覧下さい。
問合せ先 福井工業高等専門学校電子情報工学科 川上由紀
TEL [0778] 62-8308 kawakami@ei.fukui-nct.ac.jp
主催 電子情報通信学会北陸支部

●平成 25 年度第 3 回学生講演会

日時 平成 25 年 11 月 22 日 (金) 10:30~12:00
会場 富山大学工学部共通講義棟 210 教室 (富山市五福 3190)
演題 私の研究と大学遊歴
講師 王 小龍 (筑波大)
参加費 無料
参加資格 会員以外の方も入場できます。事前の参加申込みは不要です。詳しくは北陸支部 HP: <http://www.ieice.org/hokuriku/> を御覧下さい。
問合せ先 富山大学工学部知能情報工学科 参沢匡将
TEL [076] 445-6753 misawa@eng.u-toyama.ac.jp
主催 電子情報通信学会北陸支部
協賛 富山大学工学部

講演会・講習会・学術研究集会等

——関西支部——

●電気四学会関西支部専門講習会「M2M を支える技術と近未来展望—無線給電、省電力化、エネルギーハーベスティング—」

近年、コンピュータネットワークにつながれた機械同士が人間を介せず相互に情報交換して高度な制御やサービスを提供する技術 (M2M: Machine-to-Machine) への期待が高まっています。センサ情報による自動制御から、膨大な数のセンサやものがネットワークでつながる世界 (IoT: Internet of Things) へと着実に進んでいます。情報通信技術の進歩と通信の低価格化、クラウド化、センサ技術の発達及び高速無線通信の普及により、M2M 技術は実用レベルとなり、市場 (適用分野) も見えてきています。しかし一方で、解決すべき課題が残されているのも事実です。その一つに、膨大な数のセンサやものをつなぐシステムへの電源の供給があります。

本専門講習会では、M2M を支える技術として、センサネットワーク系の電力供給方法に焦点を当てて概要から応用までを最前線で御活躍の専門家の方々に御紹介頂きます。

皆様の御参加をお待ち申し上げております。

日時 平成 25 年 12 月 6 日 (金) 9:55~16:20
会場 中央電気倶楽部 513 号室 (大阪市北区堂島浜 2-1-25, ドージマ地下センター南詰を右側に上がり、右へ約 50 m, 左側のレンガ造り建物)

講演内容

- (1) 開講の挨拶 電子情報通信学会関西支部
- (2) M2M における省電力化技術とバッテリーレス端末について 山本高至 (京大)
- (3) 圧電薄膜を用いた MEMS エナジーハーベスト 神野伊策 (神戸大)
- (4) センサネットワークにおける極低電力回路技術 更田裕司 (東大)
- (5) ナノワット級無線通信端末構成技術 大嶋尚一 (NTT)
- (6) エレクトレット振動発電技術のセンサネットワークへの活用 森口 誠 (おもろ)
- (7) 閉講の挨拶 電子情報通信学会関西支部

聴講料 主催学会会員 (正員 10,000 円, 准員・学生員 無料), 非会員 (一般 12,000 円, 学生 2,000 円) (会員, 非会員共に消費税込み)

定員 80 名 (定員になり次第, 締め切らせて頂きます)

申込方法 開催日・会員種別・氏名・連絡先 (会社学校名・所属・郵便番号・所在地・電話番号) を電子情報通信学会関西支部の HP (<http://www.ieice.org/kansai/>) からお申込み下さい。なお、はがき、FAX、E-mail でも受け付けますので下記にお申込み下さい。

申込先 〒530-0004 大阪市北区堂島浜 2-1-25
中央電気倶楽部内関西電気関連学会事務センター
TEL [06] 6341-2529, FAX [06] 6341-2534
denki4g@ares.eonet.ne.jp

主催 電子情報通信学会・電気学会・照明学会・映像情報メディア学会各関西支部

●電気四学会関西支部専門講習会「電力系統と交直変換器の相互作用」

直流連系, 調相設備としての STATCOM, メガソーラーなど, 電力系統への交直変換器の適用は多岐に及びます。国内では、紀伊水道, 南福光, 東清水等, 他励変換器を用いた直流連系のほか, 自励変換器の適用先としては、犬山, 神崎, 伏木などの

電気所に設置された STATCOM や、各地で建設が進んでいるメガソーラーのパワーコンディショナーも増加しています。海外では、沖合風力発電からの直流送電にも自励変換器が導入されつつあります。しかし、電力系統への交直変換器の適用に際しては、電圧変動、高調波不安定、高調波共振、発電機軸ねじれ振動、過電圧など、電力系統と交直変換器の相互作用現象の発生に注意を払って未然に防ぐことが肝要です。当講習会では、これら相互作用の様相、発生メカニズム、対策について、代表的な設備での事例紹介も織り交ぜて、分かりやすく解説致します。系統連系用の交直変換装置の計画、設計、運用、研究、解析などに従事される技術者・研究者の方々はじめ、多くの皆様の参加をお待ちしています。

日 時 平成 25 年 12 月 19 日 (木) 13:30~17:00

会 場 中央電気倶楽部 513 号室 (交通等前掲参照)

題目と講師：(司会) 伊与田 功 (阪電通大)

- (1) 開講の挨拶 電気学会関西支部支部長
- (2) 電力系統と交直変換器の相互作用 (総論) 中島達人 (東京電力)
- (3) 相互作用を検討する共通参考情報 天満耕司 (三菱電機)
- (4) 事例調査 他励変換器 (HVDC) 今西隆夫 (関西電力)
- (5) 事例調査 他励変換器 (FC, BTB, 海外事例) 吉田忠美 (北陸電力)
- (6) 事例調査 自励変換器 (BTB, STATCOM) 黒田和宏 (日新電機)
- (7) 事例調査 自励変換器 (太陽光, 風力, 海外事例) 江口吉雄 (日立)
- (8) 質疑応答
- (9) 閉講の挨拶 電気学会関西支部総務企画幹事

参加費 (テキスト代別) :

主催学会 会員 4,000 円, 准員 1,500 円 (会員不課税),
会員外 5,000 円 (会員外消費税込み), 学生無料

テキスト 電気学会技術報告第 1291 号「電力系統と交直変換器の相互作用」(会員 2,436 円, 一般 3,045 円 (税込)) を使用します。希望者には特別価格 (2,200 円 (税込)) で頒布致します。テキストが必要な方は 12 月 5 日 (木) までに事前お申込みをお願い致します。

Web 申込ではテキストの要否欄に「要」を、はがき/FAX/E-mail には、「テキスト希望」と書いて下さい。はがきで申込みをされる場合は締切日必着でお願いします。テキストは当日お渡し致します。

定 員 60 名 (定員になり次第、締め切らせて頂きます。)

申込方法 電気学会関西支部 HP (<http://www2.iee.or.jp/ver2/kansai/>) からお申込み下さい。はがき、FAX または E-mail による申込みの場合、講習会題目、開催日、会員種別、氏名、連絡先 (会社あるいは学校名、所属、郵便番号、所在地、電話番号) 並びにテキストの要否を、下記の申込先まで御連絡下さい。後日、参加証と請求書をお送りします。なお、お知らせ頂きました個人情報は、行事を運営する目的以外に使用することはありません。

申込先 〒530-0004 大阪市北区堂島浜 2-1-25
中央電気倶楽部内関西電気関連学会事務センター
TEL [06] 6341-2529, FAX [06] 6341-2534
denki4g@ares.eonet.ne.jp

主 催 電子情報通信学会・電気学会・照明学会・映像情報メディア学会各関西支部

共 催 電気学会 電力技術委員会「電力系統と交直変換器の相互作用調査専門委員会」

●IEICE 関西支部 ICT 基礎講座「アルゴリズムから学ぶ暗号技術」

近年の情報通信関連開発では、必要とされる技術の多様化と開発期間の短縮により、若手技術者が OJT を通して基礎知識や基礎技術を習得することが難しくなっていると指摘されています。また、これまで予想されなかった分野で情報通信技術が適用されることも増えており、大学・大学院教育で身に付けた技術分野を越えた多彩な技術を取得する必要性が高まっています。

このような状況を鑑み、電子情報通信学会関西支部では、情報通信に関する様々な技術を集中講義形式で学習できる講座「IEICE 関西支部 ICT (Information and Communication Technology) 基礎講座」を開講しています。本講座は基礎的な知識や技術に重点を置きながら、基礎から展開して最先端技術へ至るまで講義・実習することを目的としています。各講座の受講者数を 10 名程度の少人数に絞ることで講師との双方向コミュニケーションを可能とし、短期間で先端技術の基礎を習得することを狙っております。今年度の第 4 回の講座として「アルゴリズムから学ぶ暗号技術」を下記のとおり開講致します。幸いなことに、これまで開催された講座は、受講生から大変高い評価を頂いております。皆様の積極的な受講をお待ちしております。

日 時 平成 25 年 12 月 20 日 (金) 9:40~16:50

会 場 中央電気倶楽部 215 号室 (交通等前掲参照)

内 容 TLS (旧称:SSL) で使用される主な暗号技術のアルゴリズムについて解説します。特に公開鍵暗号の動作原理を理解することを主なテーマとし、実装時に必要となる数論アルゴリズムについても詳細に解説します。また、フリーの計算機代数ソフトウェア PARI/GP による実習も行います。シラバスは下記 URL から御覧頂けます。

<http://www.ieice.org/kansai/ict/>

講 師 村上恭通 (阪電通大)

受講料 会員:8,000 円, 学生:2,000 円, 非会員:20,000 円 (会員、非会員共に消費税込み)

募集人数 5 名以上, 最大 15 名 (開講 2 週間前までに申込み人数が 5 名に達しない場合、開講しないこともあります)

申込方法 関西電気関連学会事務センターに電子メールで申込み下さい。

問合先 〒530-0004 大阪市北区堂島浜 2-1-25

中央電気倶楽部内関西電気関連学会事務センター

TEL [06] 6341-2529, FAX [06] 6341-2534

denki4g@ares.eonet.ne.jp

主 催 電子情報通信学会関西支部

—— 本会・ソサイエティ・グループ・

研究専門委員会等主催・共催 ——

●電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会 主催

日本技術者教育認定機構 (JABEE) 審査講習会・受審校向け講習会

日 時 2013 年 11 月 23 日 (土) 審査講習 10:00~16:55, 受審校向け講習 17:00~18:30

10:00~16:55 の審査講習を受講頂くと、JABEE 審査のオブザーバ資格が得られます。

場 所 電気学会会議室 (千代田区五番町 6-2, HOMAT HORIZON ビル 8F)

募集人員 50 名 (先着順)

交通手段 <http://www2.iee.or.jp/ver2/honbu/31-doc-honbu/map.pdf> を御参照下さい。

講習費用 10,000 円 (消費税含む) (審査講習のみ, 受審校向け講習のみ受講の場合も同じ)

申込方法 電気学会技術者教育課に電子メールにて 11 月 15 日(金)までに以下の各項を御連絡下さい。

- ・所属機関名
- ・部署名
- ・役職
- ・氏名 (ふりがな)
- ・所属学協会名 (注. 入会している学協会名は全て記載下さい)
- ・電子メールアドレス
- ・電話番号
- ・審査員養成講習会への参加経験 (参加した年)
- ・質問事項があれば記載のこと

申込電子メール宛先 jabee-office@iee.or.jp

電子メールの題目に「2013 年度 JABEE 審査講習会申込」と記載下さい。

支払方法 当日現金にてお支払い下さい。

問合せ先 一般社団法人電気学会技術者教育課(担当:荒井・佐藤)

TEL [03] 3221-3710, FAX [03] 3221-3704

E-mail : jabee-office@iee.or.jp

講習内容

- | | | |
|-------------|-------------------|---------|
| 9:30~10:00 | 登録・資料確認 | |
| 10:00~10:10 | 本講習会の位置付けと講習会後の資格 | 講師:佐藤之彦 |
| 10:10~10:45 | 認定制度の考え方と基本方針 | 講師:佐藤之彦 |
| 10:45~11:30 | 認定基準の解説 | 講師:古閑隆章 |
| 11:30~12:15 | 認定・審査の手順と方法 | 講師:長尾雅行 |
| 12:15~13:00 | 昼食・休憩 | |
| 13:00~13:45 | 自己点検書 | 講師:佐渡一広 |
| 13:45~14:30 | プログラム点検書・審査報告書 | 講師:藤田英明 |
| 14:30~15:15 | 審査の手引き (前半) | 講師:甲斐宗徳 |
| 15:15~15:25 | 休憩 | |
| 15:25~15:55 | 審査の手引き (後半) | 講師:小西博雄 |
| 15:55~16:10 | 審査チームの構成と倫理規定 | 講師:荒川 薫 |
| 16:10~16:55 | 認定・審査に関する質疑応答 | 司会:相知政司 |
| 16:55~17:00 | 休憩 | |
| 17:00~17:45 | 受審に関する留意点 | 講師:藤田英明 |
| 17:45~18:30 | 受審に関する質疑応答 | 司会:吉田明正 |
| 18:30 | 解散 | |

注)都合によりスケジュールが変更となる場合がありますので御了承下さい。

●MWE 2013 (2013 Microwave Workshops and Exhibition)

スマートな生活を創造するワイヤレステクノロジー

[マイクロウェーブワークショップ]

日時 平成 25 年 11 月 27 日 (水) 10:00~16:30
28 日 (木) 9:00~16:30
29 日 (金) 9:00~16:30

会場 パシフィコ横浜アネックスホール・展示ホール D (横浜市西区みなとみらい)

参加費 無料

ワークショップダイジェスト代:一般:5,000 円, 学生:2,000 円

事前登録不要. 来場時に会場受付にて御登録下さい。

プログラムの詳細は <http://www.apmc-mwe.org/> で御確認下さい。

11 月 27 日 (水) [午前]

- (1) 開会式
- (2) 基調講演「電波政策の最新動向について」
竹内芳明 (総務省)
- (3) 特別講演「ソフトウェア無線機の構築に向けて」
荒木純道 (東工大)

[午後]

- (4) 基礎講座「実用的マイクロ波フィルタ設計の基礎と応用」
石崎俊雄 (龍谷大)・平塚敏朗 (村田製作所)
- 入門講座「材料技術者にやさしいマイクロ波回路の考え方」, 「材料特性を考慮した高周波回路基板のスマートな使い方」
ワークショップ:「マイクロ波技術が支える無線電力伝送」, 「携帯端末組込用小型アンテナ技術」

11 月 28 日 (木) [午前]

- (1) 基礎講座「基礎から学ぶ電磁界シミュレータの仕組み」
平野拓一 (東工大)・田口光雄 (長崎大)
- ワークショップ「マイクロ波医療応用の動向」, 「近距離無線スマートセンサネットワーク」

[午後]

- (2) 基礎講座「マイクロ波増幅器設計の基礎」
高木 直 (東北大)
- ワークショップ「変換電磁気学・メタマテリアル」, 「移動体高速無線通信技術」, 「電磁界シミュレーションの高速化技術の最前線」, 「規範問題による電磁界シミュレータの精度の検証」

[ワークショップ終了後]

- (3) IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award 授与式

11 月 29 日 (金) [午前]

- (1) 基礎講座「Sパラメータで理解するマイクロ波回路」
太田 勲 (兵庫県立大)
- ワークショップ「ミリ波・テラヘルツハードウェアの最新動向」, 「通信システムを支えるデジタルアシスト, キャリブレーション技術」

[午後]

- (2) 特別セッション<特別講演>「自動車電話・携帯電話の黎明期から成長発展期に至る無線方式・技術の研究開発」
奥村善久 (金沢工大名誉教授), ほか 4 名
- ワークショップ「古典的フィルタ理論を超えた新しいマイクロ波フィルタの創造と設計」, 「可変性・適応性を有するスマートなマイクロ波増幅器」, 「デジタルアシストが支える新しい RF 計測—「ものづくり」へのインパクト—」, 「高精度 S パラメータ測定のための治具とプローブの最新校正・補正手法」

[マイクロウェーブ展 2013]

日時 平成 25 年 11 月 27 日 (水)~29 日 (金)
10:00~17:30 (最終日のみ 17:00 終了)

会場 パシフィコ横浜 展示ホール D (横浜市西区みなとみらい)

参加費 無料/事前登録不要. 来場時に会場受付にて御登録下さい。

各種高周波・マイクロ波関連製品（材料・基板、半導体素子・部品、通信装置・コンポーネント、測定装置・加工装置、ソフトウェア・シミュレータ、エンジニアリング・製造受託等）の展示、マイクロ波電磁界シミュレータの変遷の特別企画展示、マイクロ波の歴史展示、大学・高等専門学校における研究活動や産学連携への取組みなどを紹介する大学展示も併設。出展社による出展企業セミナーと特別企画セミナーも展示会場内にて同時開催。

問合せ先 MWE 2013 事務局（リアルコミュニケーションズ内）
TEL [047] 309-3616, FAX [047] 309-3617
mweapmc@io.ocn.ne.jp
http://www.apmc-mwe.org/

主催 電子情報通信学会 APMC 国内委員会
後援 総務省
協賛 電子情報通信学会；マイクロ波研究専門委員会／エレクトロニクスシミュレーション研究専門委員会、IEEE MTT-S Japan/Kansai/Nagoya Chapter、日本電磁波エネルギー応用学会、エレクトロニクス実装学会、電気学会「革新的電磁波利用技術とその応用展開」調査専門委員会

●HCG シンポジウム 2013—一人々の生活を幸せで豊かにしていく ICT とコミュニケーション

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）では、HCG シンポジウム 2013 を松山にて開催致します。本シンポジウムでは、口頭発表に加えて深く議論するためのデモやポスターによるインタラクティブ発表もご致します。多くの方に御発表、御議論頂くことで、「人を中心に据えた」情報通信技術の新たな研究のシーズを生み出す場、これからの時代の流れを新たに作り出すパワーを生み出す場となるのが本シンポジウムの目標です。皆様、奮って御参加下さい。

本シンポジウムでは二つの招待講演と食メディア研究会（CEA 研究会）による研究会企画セッションを予定しており、活発な議論が行われると期待しております。

また、本シンポジウムでは「コミック工学」、「ユーザセンタードデザインとデザイン思考」「空気メディアの現状と展望」の三つのオーガナイズドセッションを企画しており、約 30 件の発表が行われます。

HCG は、フィールドやアプローチを異にする多彩なコミュニティとの連携により新しいことを生み出す場となることを目標としております。幅広い分野からの多数の参加をお待ちしております。

HCG 運営委員長 黒岩真吾

実行委員長 中村裕一

副実行委員長 大塚真吾、今井順一、井原雅行

プログラム委員長 岩井将行、今井順一

プログラム副委員長 新井田 統

日時 12月18日（水）9:20~18:15（受付:9:00）

19日（木）9:10~18:15

（19:00~21:00 懇親会・HC 賞表彰式）

20日（金）9:10~12:30

会場 松山市総合コミュニティセンター（松山市湊町 7-5）

Web <http://2013.hcg-symposium.org/>

参加費（予定）（CD-ROM 論文集代込み）（※事前申込締切（予定）：11/30（土））

一般：[事前申込] 6,000 円、[当日] 7,000 円

学生：[事前申込] 3,000 円、[当日] 4,000 円

■懇親会 12月19日（木）19:00~

懇親会費（予定）（※事前申込締切（予定）：11/30（土））

一般：[事前申込] 4,000 円、[当日] 5,000 円

学生：[事前申込] 1,000 円、[当日] 5,000 円

ヒューマンコミュニケーション賞の授賞式も行います。

■情報保障の御案内

情報保障につきましては準備の都合がございますので事前にお申込み下さい。PC 要約筆記及び手話通訳については 11 月 18 日（月）までに聴講を希望される発表を具体的にお知らせ下さい。インタラクティブ発表、招待講演、懇親会などの全体行事につきましても、可能な限り対応させていただきますので、参加の御予定を事前にお知らせ下さい。特に点字資料（全体プログラム）を御希望の方はお早めにお知らせ下さい。なお、論文集は PDF（電子データ）で配付します。そのほか、車椅子での御参加など、お手伝いが必要な方は、事前に御連絡下さい。

情報保障に関するお問合せ hcg2013-contact@kanagawa-it.sakura.ne.jp 情報保障担当：若月大輔（筑波技術大）

■招待講演、研究会企画セッション案内

・招待講演 1：12月19日（木）12:25~

「おいしさの構造と客観的評価」 伏木 亨（京大）

・招待講演 2：12月19日（木）15:05~

「大規模 Web データと実世界データの融合（仮）」

豊田正史（東大）

・研究会企画セッション：12月19日（木）13:50~

CEA 研究会（食メディア第二種研究会）

■プログラム

※オーガナイズドセッション内の発表時間については予定時間となります。（最新の情報は HP <http://2013.hcg-symposium.org/> を御確認下さい）

●12月18日（水）

オープニング（9:20~9:35）

A-1 近未来 UI（9:35~10:55）

(A-1-1) 頭部への刺激を用いた情報提示デバイスの開発

○兼古哲也・棟方 渚・小野哲雄（北大）

(A-1-2) SF 映画シーンを活用した近未来 UI デザインのためのライブラリ開発の試み

○飯塚重善（神奈川大）

飯尾 淳（中大）・松原幸行（キノ）

(A-1-3) スマートフォンにおけるタッチジェスチャーを用いたバイオメトリクス認証手法

○山田健一朗・

納富一宏（神奈川工科大）・斎藤恵一（国際医療福祉大）

(A-1-4) 人間の視覚・運動特性を考慮した指差し支援インタフェース

○保澤圭亮・吉本廣雅・近藤一晃・小泉敬寛・

中村裕一（京大）

B-1 文章解析技術（9:35~10:35）

(B-1-1) 就職面接における不適切回答の検出手法

○沖村秀哉・目良和也・黒澤義明・竹澤寿幸（広島市大）

(B-1-2) Twitter におけるコミュニティ認知と記事投稿の関係

○大沼美由紀・木村 敦・武川直樹（東京電機大）

(B-1-3) 歌詞検索のための意味情報を用いたクエリの拡張

○篠山 学（香川高専）・松本和幸（徳島大）

12月18日（水）C-1 色彩と画像処理（9:35~10:55）

(C-1-1) クラスタリングを用いた色検出閾値決定とその評価

○菅谷隆浩・板垣泰弘・西村広光・田中 博 (神奈川工科大)
(C-1-2) おいしそうなたまごの色彩特徴 ○折元 亮・丸山高德・志堂寺和則 (九大)
(C-1-3) 個人視点映像を一覧するための広視野貼り合せ画像群の自動生成—貼り合せの良さに基づいた画像の選択とグループ化— ○松井研太・近藤一晃・小泉敬寛・中村裕一 (京大)
(C-1-4) モーションキャプチャで計測された形状の動的変化を再現する3次元顔の表情生成 ○永田俊介・荒井雄大・稲葉善典・赤松 茂 (法政大)
A-2 空気メディアの現状と展望1 (オーガナイズドセッション) (11:10~11:50)
(A-2-1) 空気メディア: 見えずとも感じられるメディア技術 柳田康幸 (名城大)
(A-2-2) 風インタフェース: 空気で“さわる”を表現する 小林 稔 (NTT)
B-2 ユーザーセンタードデザインとデザイン思考1 (オーガナイズドセッション) (11:10~12:10)
(B-2-1) 参与観察による長期デザインプロジェクトの要点の分析 ○草野孔希・朝井大介・中谷桃子 (NTT)・白坂成功・石橋金徳 (慶大)
(B-2-2) 体験情報を外在化するための協創環境のデザイン—高齢者の土産話を対象として— ○月川香奈子・白水菜々重・松下光範 (関西大)
(B-2-3) 参加型デザインに基づく業務プロセスデザイン—大規模ネットワーク保守業務を題材として— ○大野健彦・草野孔希・中谷桃子 (NTT)
C-2 脳と眼球 (11:10~12:10)
(C-2-1) 瞳孔径計測に基づいた視覚的注意位置の推定及び視線移動位置の予測 ○金子寛彦・藤井孝芳 (東工大)・阪本清美・坂下誠司 (パソナ)
(C-2-2) 脳波による深部脳活動度評価と快適性制御 片桐祥雅 (NICT)
(C-2-3) 発話制御における深部脳活動—脳波による評価 ○今井絵美子 (神戸大)・片桐祥雅 (NICT)・川又敏男 (神戸大)
18日(水) 午後 A-3 空気メディアの現状と展望2 (オーガナイズドセッション) (13:10~15:50)
(A-3-1) 圧縮空気顔面触覚ディスプレイとしての可能性 ○上岡玲子・山本修平・山口真美 (九大)
(A-3-2) 空気砲を活用したインタラクティブお参りシステム ○山本修平・上岡玲子 (九大)
(A-3-3) 頭部に対する均一な風提示による風向知覚特性の測定 ○中野拓哉・吉岡有哉・柳田康幸 (名城大)
(A-3-4) 五感シアターにおける空気メディア ○広田光一 (東大)・雨宮智浩 (NTT)・池井 寧 (首都大東京)
(A-3-5) 香りと空気が放出される映像提示システムの提案 伴野 明 (東海大)
(A-3-6) パーソナル空間における香りの時空間制御 ○キム ドンウク・西野由利恵・安藤広志 (NICT)
(A-3-7) 嗅覚ディスプレイを用いたインタラクティブ・アート ○伊関方晶・中本高道 (東工大)
(A-3-8) VRのための香りの提案 春原吉美 (P&G)
B-3 ユーザーセンタードデザインとデザイン思考2 (オーガナイズドセッション) (13:10~16:00)
(B-3-1) ユーザインタビューに基づく遠隔絵本読み聞かせサー

ビスの検討 中茂睦裕 (NTT)
(B-3-2) 顧客の行動観察に基づくauショップの店舗改善事例 ○矢崎智基・藤田顕吾・高木佳彦・新井田 統 (KDDI研)・齊藤恭也・木村奈津子 (KDDI)
(B-3-3) ユーザ理解に基づくICTサービスのデザイン—ユーザデータをどのようにデザインに活かすのか— ○中谷桃子・大野健彦 (NTT)・安岡美佳 (ITU)
(B-3-4) アイコン画像の色彩を直観的に操作できるアプリ検索インタフェースの可能性 梶山朋子 (青学大)
(B-3-5) イタレーションによるサービスアイデア創造に着目したデザインプロジェクトの実践事例 ○朝井大介・片桐有理佳・大野健彦・浅野陽子 (NTT)
(B-3-6) ユーザ体感品質を考慮したネットワーク設計手法 新井田 統 (KDDI研)
(B-3-7) ワークショップ: アカデミックとビジネスの融合 各発表を題材に、ユーザーセンタードデザインやデザイン思考をどのように進めて行けばよいのか、どのような研究が望まれているのかについて、研究機関の立場と企業の立場から、ワークショップ形式で議論をする。
C-3 コミック工学1 (オーガナイズドセッション) (13:10~15:40)
(Session's Opening Remarks) (13:10~13:30)
コミック工学セッションの開催にあたって 松下光範 (関西大)
(C-3-1) 感性を基軸としたコミック工学研究のプラットフォームの提案—コミック読者間の意見分析から— ○山西良典 (立命館大)・杉原健一郎・井上林太郎・松下光範 (関西大)
(C-3-2) マンガのオノマトペ表現に着目したコンテキストウェアアプリケーション構築の一検討 ○角 康之・松村耕平 (公立はこだて未来大)
(C-3-3) マンガ没入型エンタテインメントシステムの可能性 ○小出雄空明・國富彦岐・藤村 航・奈良優斗・白井暁彦 (神奈川工科大)
(C-3-4) リソース間関係のメタデータを利用したマンガコレクションブラウザ ○岩間勇介・三原鉄也・小平優衣・永森光晴・杉本重雄 (筑波大)
(C-3-5) レビュー文に基づくコミック類似度判定手法の検討 ○山下 諒・松下光範 (関西大)
(C-3-6) 文末表現のパターンを用いたコミック質問応答の質問文分類手法 ○水戸拓実・波多野賢治 (同志社大)・松下光範 (関西大)
I-1 インタラクティブ発表概要1 (インタラクティブ発表だけを行う人) (16:10~16:30)
(I-1-1) 対比較ベースの対話型差分進化による香りの最適化と評価方法の検討 ○福本 誠・古賀慎平・河合啓二 (福岡工大)・井上 誠 (秋田高専)・今井順一 (千葉工大)
(I-1-2) 振動触覚ディスプレイによる気配提示システムの研究—ウェアラブルディスプレイのためのシステム構成— ○大地 徹・柳田康幸 (名城大)
(I-1-3) ペンライト型デバイスを用いた聴覚コンテンツの拡張 ○岩間芳宏・柳田康幸 (名城大)
(I-1-4) 果樹園農家の高齢化を考慮したWebサイトと気象データシステムの構築 ○小林愛実・大塚真吾 (神奈川工科大)
(I-1-5) 研究者同士のつながり発見ツールの検討 ○岡崎有彩・大塚真吾 (神奈川工科大)

- (I-1-6) 測域センサデータ処理と可視化 ○佐藤 充・白井暁彦・大塚真吾 (神奈川工科大)
- (I-1-7) シングルボードコンピュータを利用した省電力気象センサシステムの構築 ○笹本芳和・大塚真吾 (神奈川工科大)
- (I-1-8) シングルボードコンピュータを活用した農家支援 ○小林寛高・大塚真吾 (神奈川工科大)
- (I-1-9) 気持ちを伝える手紙形式のガイドマップの提案—静岡県伊東市を事例として— ○中野えみり・小川克彦 (慶大)
- (I-1-10) 犬目線による街の紹介ビデオの提案と評価 ○太田千尋・小川克彦 (慶大)
- (I-1-11) 医療用手話の例文データ収集 ○寺内美奈 (職業大)・渡辺桂子・長嶋祐二 (工学院大)・加藤直人・宮 太郎・井上誠喜・梅田修一・清水俊宏・比留間伸行 (NHK)
- (I-1-12) 単眼視を用いた奥行き情報が視覚的注意に与える影響について—高速逐次視覚呈示 (RSVP) 課題を用いて— ○鶴ヶ野紘大・木原 健 (鹿児島大)・島村 潤・谷口行信 (NTT)・大塚作一 (鹿児島大)
- (I-1-13) 単眼視による奥行き情報が視覚的注意に与える影響について—オブジェクト置き換えマスキング課題を用いて— ○宮路佳奈・木原 健 (鹿児島大)・島村 潤・谷口行信 (NTT)・大塚作一 (鹿児島大)
- (I-1-14) ツイッターを活用したカラオケのつながりサービス「30 seconds KARAOKE」の提案 ○松野奈都美・中川ヨウ・小川克彦 (慶大)
- (I-1-15) タブレット端末を用いた議論状態の管理と合意形成支援ツールの試作 ○高木宏伸・嶋田和孝 (九工大)
- (I-1-16) 演劇台本における登場人物の人間関係抽出 ○秋田恭佑・松本和幸・吉田 稔・北 研二 (徳島大)
- (I-1-17) Emotional Turmail (ET) 要素を内包するソーシャルシティ実現に向けた IT インフラの設計 鈴木淳一 (ISI-Dentsu)・○川原靖弘・吉田 寛 (放送大)・渡邊信彦 (ISI-Dentsu)
- (I-1-18) ユーザの興味探索を行うマルチドメイン雑談型音声対話システム ○凌 曦・酒向慎司・北村 正 (名工大)
- インタラクティブセッション 1 (16:30~18:15)**
- 12月19日 (木)**
- A-4 コミック工学 2 (オーガナイズドセッション) (9:10~9:50)**
- (A-4-1) メタデータを用いたマンガ制作と探索の支援 ○三原鉄也・永森光晴・杉本重雄 (筑波大)
- (A-4-2) マンガのライフサイクルに基づいた制作支援—マンガ制作の上流工程支援ツール— ○萩原 彰・三原鉄也・永森光晴・杉本重雄 (筑波大)
- B-4 キネクティックコンピューティング (9:10~9:50)**
- (B-4-1) 大画面プレゼンテーションにおける直感的なポインティング手法の提案と評価 ○渡辺恵太・中道 上 (福山大)・山田俊哉 (NTT-IT)・尾関孝史 (福山大)
- (B-4-2) 複数台 Kinect を用いたスマート人流計測 ○中東 渉・加藤住祐・鉄谷信二・岩井将行 (東京電機大)
- C-4 学習と支援 (9:10~10:10)**
- (C-4-1) 算数障がい者に対するメタ認知を取り入れた学習法の検討 ○山田康平・高丸公斗・畑山雄二・縄手雅彦 (島根大)
- (C-4-2) 注意切り替えに苦みさを持つアスペルガー症候群児に対する学習支援手法の検討 ○門田直樹・高丸公斗・縄手雅彦 (島根大)
- (C-4-3) 学びの意欲とコミュニケーションの役割—第3種 CML 研究会, FB を通じた高校教員とのつながりの模索— 小粥幹夫 (魅力と意欲の研究会)
- A-5 コミック工学 3 (オーガナイズドセッション) (10:25~11:05)**
- (A-5-1) 読者の視線移動軌跡を基準とする初心者向けマンガ内容要素配置支援システムの設計 ○根来美貴 (エムオーテックス)・曾我真人・瀧 寛和 (和歌山大)
- (A-5-2) 絵の時系列的状態遷移を用いた 2 コマ漫画の自動生成 ○上野未貴・森 直樹・松本啓之亮 (阪府大)
- B-5 加速度センサ応用 (10:25~11:25)**
- (B-5-1) スマートフォン端末を利用したデッドレコニングにおける蓄積誤差補正手法の検討と評価 ○屋良朝克・法月佑太・五百蔵重典・田中 博 (神奈川工科大)
- (B-5-2) 一人称視点カメラと加速度センサを用いた情報探索行動の検出 ○堀内麻由・川本一彦・岡本一志 (千葉大)
- (B-5-3) センサを用いた舞踏の表現技能分析法に関する一検討 ○仁昌寺沙紀・松田浩一 (岩手県立大)・清家久美子・海賀孝明 (わび座)
- C-5 障がい者支援学習 (10:25~11:25)**
- (C-5-1) Kinect を用いた指文字練習システムにおける識別処理とユーザインタフェースの改良 ○田中陽土 (筑波技大)・高林大輔 (筑波大)・近藤真暉・加藤伸子 (筑波技大)・福井和広 (筑波大)・岡崎彰夫 (筑波技大)
- (C-5-2) 視覚的な音韻意識訓練が読みに及ぼす効果 ○松山祐希・高丸公斗・縄手雅彦 (島根大)
- (C-5-3) 発達障がい児のための自主学習可能な訓練手法の開発 ○井上博幸・縄手雅彦 (島根大)
- 19日 (木) 午後 A-6 招待講演 1 (12:25~13:35)**
- 「おいしさの構造と客観的評価」 伏木 亨 (京大)
- A-7 企画セッション (13:50~14:50) 食メディア研究会**
- B-7 センシングと快適性 (13:50~14:50)**
- (B-7-1) 館林市における熱中症に影響を与えるリアルタイム気象データの可視化 ○松本佳明・田島誠也・多田真之・鉄谷信二 (東京電機大)・戸辺義人 (青学大)・岩井将行 (東京電機大)
- (B-7-2) 空調制御のためのバイタルデータを用いた個人の温熱快適性推定 ○洪 榮作・杉本千佳・河野隆二 (横浜国大)
- (B-7-3) リーセンサー効果を用いた適応型屋外広告配信のための興味センシング ○木田裕一郎・奥野淳也・青木俊介・小林博樹 (東大)・岩井将行 (東京電機大)・瀬崎 薫 (東大)
- C-7 リハビリテーション支援 (13:50~14:50)**
- (C-7-1) 認知症ケアにおける写真を用いた会話に基づく個人回想用キーワード抽出の試み ○小林拓美・廣富哲也・有持佑亮・原 祥子 (島根大)
- (C-7-2) 上肢能動運動が時間周波数知覚に与える影響 ○横坂拓巳・黒木 忍・渡邊淳司・西田真也 (NTT)
- (C-7-3) 坂道歩行リハビリテーションシステムにおける傾斜提示に関する研究 ○矢野博明 (筑波大)・田中直樹・齊藤秀之 (筑波記念病院)・岩田洋夫 (筑波大)
- A-8 招待講演 2 (15:05~16:15)**
- 「大規模 Web データと実世界データの融合 (仮)」 豊田正史 (東大)
- I-2 インタラクティブ発表概要 2 (インタラクティブ発表だけを行う人) (16:15~16:30)**
- (I-2-1) キャラクターの顔を用いたイラスト画像の作者識別

- 藤澤日明・松本和幸・吉田 稔・北 研二 (徳島大)
 (I-2-2) オンライン配布資料へのノート機能自動付与ウェブシステムの開発 ○星野裕樹・谷村 祐・西村広光・示野浩士・納富一宏 (神奈川工大)・斎藤恵一 (国際医療福祉大)
 (I-2-3) 顔画像から抽出される Gabor 特徴を用いた年齢推定—加齢変化との相関の高い特徴成分選択による重回帰分析への影響— ○浅水宏文・菅田幸希・稲葉善典・赤松 茂 (法政大)
 (I-2-4) 手指画像におけるカラーヒストグラム間のバタチャリヤ距離による生体認証手法—認証システムのパラメータ調整—
 ○谷村 祐・納富一宏 (神奈川工大)・斎藤恵一 (国際医療福祉大)
 (I-2-5) Gabor 特徴を用いた顔画像からの年齢層自動識別
 ○菅田幸希・浅水宏文・手倉森 凌・稲葉善典・赤松 茂 (法政大)
 (I-2-6) 一対提示された顔画像の印象比較時の注視点分布の分析
 ○丸山阿弓・中嶋文香・稲葉善典 (法政大)・伊師華江 (仙台高専)・行場次朗 (東北大)・赤松 茂 (法政大)
 (I-2-7) 3次元モーフィングモデルに基づく顔表情の生成—類似した表情間の印象差強調の試み— ○荒井雄大・永田俊介・稲葉善典・赤松 茂 (法政大)
 (I-2-8) 探索目標の視覚特徴分布を考慮した誘目度推定モデル
 ○大平隼也・平山高嗣・榎堀 優・間瀬健二 (名大)
 (I-2-9) スマートフォン・タブレット端末を用いた失語症者訓練・支援機器の開発 ○黒岩眞吾・有馬志保・堀内靖雄 (千葉大)・鈴木弘二 (エスコール)
 (I-2-10) 正面と左右方向における心理物理的ホロプターの形状推定 ○吉海亮介・金子寛彦 (東工大)
 (I-2-11) 和太鼓リズムのズレ修正のためのリアルタイム提示による一考察 ○工藤喬也・松田浩一 (岩手県立大)・中里利則 (海鳴太鼓)
 (I-2-12) 無意識下における和音の種類の違いの認知についての研究 ○川原靖弘 (放送大)・片桐祥雅 (NICT)
 (I-2-13) 統計モデルを用いた Bluetooth4.0 通信間の距離推定手法に関する検討 ○薄井智貴・森川高行 (名大)
 (I-2-14) 周産期における母子相互作用に関する研究
 ○矢野美紀 (県立広島大)・片桐祥雅 (NICT)・川原靖弘 (放送大)

インタラクティブセッション 2 (16:30~18:15)

懇親会・HC 賞表彰式 (19:00~21:00)

12月20日(金) A-9 知覚と力覚 (9:10~10:30)

- (A-9-1) 分散仮想環境における力覚による意思伝達の正確さの QoE 評価 ○黄 平国 (東京理科大)・曾 キ・石橋 豊・福嶋慶繁 (名工大)
 (A-9-2) 感触装置を使ったソフトウェアエンジニアリングの方法—オブジェクトの音と色によるソフトウェアの再構成—
 ○奥村震太 (岡山理大)・岩根典之 (広島市大)・吉田 誠 (岡山理大)
 (A-9-3) 継時的に提示される振動刺激の個数把握に関する基礎検討 ○飯田直己 (東工大)・渡邊淳司 (NTT/東工大)
 (A-9-4) 微粒子の薄層に対する粗さの触知覚
 ○坪井広樹 (東工大)・井上 誠 (筑波大)・黒木 忍 (NTT)・望山 洋 (筑波大)・渡邊淳司 (NTT/東工大)

B-9 協調とコミュニケーション (9:10~10:30)

- (B-9-1) 非言語手がかりを用いた対人関係解読能力—社会的ス

- キル・トレーニングにおける DESIREJ— ○磯 友輝子・大坊郁夫 (東京未来大)・横山ひとみ (東北大)・谷口淳一 (帝塚山大)
 (B-9-2) 沈黙中に表出される音声・動作フィラーが表すメッセージ ○佐々木寛紀・武川直樹・木村 敦 (東京電機大)
 (B-9-3) 多人数会話における案内エージェントの介入タイミング推定手法の提案と評価 ○乙木翔地・堀田 怜・黄 宏軒・川越恭二 (立命館大)
 (B-9-4) 食事映像の同調による非同期共食コミュニケーション
 井上智雄 (筑波大)

C-9 ユニバーサルデザイン (9:10~10:30)

- (C-9-1) 失語症者向けニュース字幕自動要約システムに関する予備調査 ○柳村舞衣・黒岩眞吾・堀内靖雄 (千葉大)・遠藤俊樹・宇都宮栄二 (KDDI 研)
 (C-9-2) 視覚障がいをもつ親に向けた絵本読み聞かせ支援アプリケーション開発の試み ○浅井 愛・谷 賢太郎 (新潟大)・伊藤 尚 (富山高専)・前田義信 (新潟大)
 (C-9-3) パーキンソン病患者と健常者のタッチパネルを使用したポインティング動作の違い ○岩崎 優・廣富哲也・小黒浩明 (島根大)
 (C-9-4) STalk2 の使用履歴を用いたコミュニケーション障がい児の言語活動の可視化 ○田河洋史・廣富哲也 (島根大)

A-10 集団行動分析 (10:45~11:45)

- (A-10-1) 集団の行動把握・予測のための環境設置型計測システムの構築—複数の指向性マイクを用いた話者位置推定の検討—
 ○村田裕章・中山雅野・藤田桂英・清水郁子・堀田政二・藤波香織・近藤敏之・中條拓伯・齋藤隆文・藤田欣也 (東京農工大)
 (A-10-2) 相互依存確率モデルを用いた麻雀の行動戦略に関する研究 ○高橋翔悟・六井 淳 (島根大)
 (A-10-3) 映像対話型行動支援における齟齬の解析と支援者の支援 ○小泉敬寛・小幡佳奈子 (京大)・渡辺靖彦 (龍谷大)・近藤一見・中村裕一 (京大)

C-10 手話の発展技術 (10:45~12:05)

- (C-10-1) 気象ニュースを対象とした手話 CG 翻訳システム
 ○加藤直人・宮 太郎・井上誠喜・梅田修一・清水俊宏・比留間伸行 (NHK)・長嶋祐二 (工学院大)
 (C-10-2) 手話単語のカテゴリ分類を考慮した階層的形態素記述法
 ○渡辺桂子 (工学院大)・寺内美奈 (職業大)・渡辺久子 (World Medish)・長嶋祐二 (工学院大)・加藤直人・宮 太郎・井上誠喜・梅田修一・清水俊宏・比留間伸行 (NHK)
 (C-10-3) 断続的な停止を伴う手話映像の可読性の評価
 ○若月大輔・加藤伸子・村上裕史・皆川洋喜・西岡知之・河野純大・内藤一郎・三好茂樹・石原保志 (筑波技大)
 (C-10-4) 手話例文アニメーション高品質化に関する検討
 ○井上誠喜・加藤直人・宮崎太郎・梅田修一・東 真希子・清水俊宏・比留間伸行 (NHK)・長嶋祐二 (工学院大)

午後 表彰・クロージング (12:05~12:20)

【問合先】 contact@hcg-symposium.org

主 催 ヒューマンコミュニケーショングループ

●2014年暗号と情報セキュリティシンポジウム (SCIS2014)
(2014 Symposium on Cryptography and Information Security)

期 日 平成26年1月21日(火)～24日(金)

会 場 城山観光ホテル(鹿児島市)

主 旨 本シンポジウムは1984年以来毎年開催され、暗号と情報セキュリティ技術に関する最新の研究成果を発表する場と情報交換の場を提供しています。2014年の開催にあたり、一般講演論文を募集します。募集テーマ例を下記に示しますが、これらに限らずセキュリティ技術に関わる論文を広く募集します(査読による絞り込みはありません)。論文は概要集(紙)及び予稿集(CD-ROM)として配布する予定です(論文の本文は紙媒体では発行せず、CD-ROM媒体のみでの発行となります)。

募集テーマ例 暗号理論、情報理論的安全性、数論応用、公開鍵暗号、IDベース暗号、だ円・超だ円曲線暗号、ペアリング、共通鍵暗号、ハッシュ関数、乱数、署名、認証、鍵管理、量子セキュリティ、サイドチャネル攻撃、暗号プロトコル、フォーマルメソッド、ネットワークセキュリティ、ネットワーク攻撃検知・対策、マルウェア対策、Webセキュリティ、ユビキタスセキュリティ、クラウドセキュリティ、セキュアOS、電子透かし、コンテンツ保護、ソフトウェア保護、プライバシー保護、バイオメトリクス、実装、教育・心理学、セキュリティ評価・モデル論文賞等 情報セキュリティ(ISEC)研究専門委員会では暗号と情報セキュリティシンポジウムの更なる発展と活性化を目指して、若手の奨励を目的としたSCIS論文賞、並びに、全講演論文を対象としたイノベーション論文賞を設定しています。暗号と情報セキュリティ分野のイノベティブな研究・開発に関する積極的な御発表をお願い致します。

主なスケジュール

平成25年11月1日 発表申込み・参加申込み受付開始

11月29日 23:59 発表申込み締切

12月6日 23:59 発表題目・要旨修正締切

12月16日 23:59 原稿提出締切

平成26年1月7日 23:59 参加申込み締切

1月21日～24日 SCIS2014開催

申 込 以下の申込みを11月1日から本シンポジウムWebページにおいて受け付ける予定です。

詳細は<http://www.iwsec.org/scis/2014/index.html>を御参照下さい。

- ・参加申込(シンポジウムへの参加、懇親会への参加)
- ・発表申込(1件につき8ページの予稿集(CD-ROM版)及び概要集を発行予定)
- ・宿泊につきましては会場である城山観光ホテルなどを特別宿泊料で御案内致します。

参加費(懇親会費を除く) 一般30,000円 学生19,000円

懇親会参加費 一般8,000円 学生6,000円

諸注意 参加・発表申込み及び原稿の締切を厳守して下さい。
(原稿に関する著作権は電子情報通信学会に属します)

問合せ 不明な点は下記にお問合せ下さい。

scis2014@ml.yrl.intra.hitachi.co.jp

SCIS2014実行委員長 福澤寧子(日立)

主 催 電子情報通信学会情報セキュリティ研究専門委員会(ISEC研)

協 催 電子情報通信学会:情報通信システムセキュリティ研究

専門委員会(ICSS研)/バイオメトリクス時限研究専門委員会(BioX研)

協 賛 鹿児島観光コンベンション協会

——本 会 が 協 賛 等 の も の ——

(※は参加費割引あり)

第11回技術者のための技術者倫理セミナー—事故・不祥事の背景から学ぶリスクマネジメント:設計会社と運営管理会社の責任—

期 日 平成25年11月9日(土)

会 場 明治大学駿河台キャンパス(東京都千代田区)

問合せ 日本機械学会技術と社会部門 担当 曾根原

FAX [03] 5360-3508

sonehara@jsme.or.jp

第192回研究会「磁性薄膜形成技術の向上と新展開」(※)

期 日 平成25年11月19日(火)

会 場 中央大学駿河台記念館(東京都千代田区)

問合せ 日本磁気学会事務局

TEL [03] 5281-0106

<http://www.magnetics.jp/seminar/topical/192.html>

日本学術会議電気電子工学委員会デバイス・電子機器工学分科会シンポジウム「持続可能で安心安全な社会の実現に向けた電気電子工学の人材とグローバル化」

期 日 平成25年11月20日(水)

会 場 日本学術会議講堂(東京都港区)

問合せ 福井孝志(北海道大学大学院情報科学研究科)

TEL [011] 706-6870, FAX [011] 716-6004

fukui@rciqe.hokudai.ac.jp

Electronic Design and Solution Fair 2013

期 日 平成25年11月20日(水)～22日(金)

会 場 パシフィコ横浜(横浜市)

問合せ 日本エレクトロニクスショー協会 担当 金子

TEL [03] 6212-5233, FAX [03] 6212-5226

kaneko@jesa.or.jp

講習会「とことんわかる自動車のモデリングと制御2013」(※)

期 日 平成25年11月25日(月)

会 場 日本機械学会(東京都新宿区)

問合せ 日本機械学会交通・物流部門 担当 大黒

TEL [03] 5360-3501, FAX [03] 5360-3508

daikoku@jsme.or.jp <http://www.jsme.or.jp/kousyu2.htm>

「研磨加工技術 基礎を知る」コース—加工原理から砥粒の使い方、洗浄まで、基本をつかむ—

期 日 平成25年11月25日(月)～27日(水)

会 場 かながわサイエンスパーク(川崎市)

問合せ 神奈川科学技術アカデミー教育研修グループ 高木

TEL [044] 819-2033, FAX [044] 819-2097

takagi@newkast.or.jp

「めっき技術の最先端と新展開」コース—高精度、多機能の表面を創成するものづくり技術の可能性—

期 日 平成 25 年 11 月 26 日 (火), 27 日 (水)
会 場 かながわサイエンスパーク (川崎市)
問合先 神奈川科学技術アカデミー教育研修グループ 高木
TEL [044] 819-2033, FAX [044] 819-2097
takagi@newkast.or.jp

短期集中セミナー「～IT スペシャリストが語るクラウドシステム／アプリ開発の面白さ～」

期 日 平成 25 年 11 月 29 日 (金)
会 場 日本ソリューションズ (東京都港区)
問合先 情報処理学会事業部門
TEL [03] 3518-8373, FAX [03] 3518-8375
jigyo@ipsj.or.jp

第 32 回エレクトロセラミックスセミナー (※)

期 日 平成 25 年 11 月 29 日 (金)
会 場 東京大学先端科学技術研究センター (東京都目黒区)
問合先 日本セラミックス協会同セミナー事務局 今中
TEL [046] 250-8389, FAX [046] 250-8281
e-seminar@cersj.org <http://www.ceramic.or.jp/bdenshi/>

平成 25 年度理研シンポジウム「有機エレクトロニクス製造のための新しい成膜技術」

期 日 平成 25 年 12 月 3 日 (火)
会 場 理化学研究所大河内記念ホール (和光市)
問合先 理化学研究所有機光電子工学研究チーム
TEL [048] 467-5499
organic-opt-office@riken.jp

第 21 回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS 2013)

期 日 平成 25 年 12 月 4 日 (水)～6 日 (金)
会 場 ザクラウンパレス新阪急高知 (高知市)
問合先 WISS2013 プログラム委員 中野倫靖 (産業技術総合研究所情報技術研究部門)
TEL [029] 861-5925, FAX [029] 861-3313
t.nakano@aist.go.jp <http://www.wiss.org/WISS2013/>

第 30 回トロンプロジェクトシンポジウム「TRONSHOW2014」
「次世代リアルタイムシステム」【ユビキタス・コンピューティング】

期 日 平成 25 年 12 月 11 日 (水)～14 日 (土)
会 場 東京ミッドタウン (東京都港区)
問合先 T-Engine フォーラム事務局 担当 山田 (YRP ユビキタス・ネットワークング研究所内)
TEL [03] 5437-0572 office@t-engine.org

第 193 回研究会「スピнкаロリトロニクス—磁気と熱の織り成す協調現象—」(※)

期 日 平成 25 年 12 月 17 日 (火)
会 場 中央大学駿河台記念館 (東京都千代田区)
問合先 日本磁気学会事務局
TEL [03] 5281-0106
<http://www.wdc-jp.com/msj/seminar/topical/193.html>

第 14 回 SICE システムインテグレーション部門講演会

期 日 平成 25 年 12 月 18 日 (水)～20 日 (金)
会 場 神戸国際会議場 (神戸市)
問合先 計測自動制御学会事務局部門協議会担当
TEL [03] 3814-4121 bumon@sice.or.jp

平成 25 年度高専女子フォーラム in 関東信越

期 日 平成 25 年 12 月 23 日 (月)
会 場 学術総合センター (東京都千代田区)
問合先 東京工業高等専門学校 担当 学生課 能登
TEL [042] 668-5372, FAX [042] 668-5092
kkyoshi@tokyo-ct.ac.jp
<http://rikeigokoro.jp/jyoshi-forum/program.html>

ソフトウェアジャパン 2014「アイドル総選挙からセキュリティまで～ビッグデータの今」(※)

期 日 平成 26 年 2 月 4 日 (火)
会 場 タワーホール船堀 (東京都江戸川区)
問合先 情報処理学会事業部門
TEL [03] 3518-8373, FAX [03] 3518-8375
jigyo@ipsj.or.jp <http://www.ipsj.or.jp/event/sj/sj2014/>

「デジタルカラー画像の解析・評価」技術講座 (※)

期 日 平成 26 年 2 月 6 日 (木), 7 日 (金)
会 場 機械振興会館別館 (東京都港区)
問合先 日本オプトメカトロニクス協会
TEL [03] 3435-9321, FAX [03] 3435-9567
info@joem.or.jp <http://www.joem.or.jp>

平成 25 年度サイエンス・インカレ

期 日 平成 26 年 3 月 1 日 (土), 2 日 (日)
会 場 幕張メッセ国際会議場 (千葉市)
問合先 科学技術・学術政策局人材政策課 助川, 三瓶, 小野
TEL [03] 6734-4191, FAX [03] 6734-4022
<http://www.science-i.jp/>